

# 「喜びも悲しみも幾歳月」

## 映画ロケーション

灯台守家族の物語を映した  
名作映画と御前崎

### 2つの重要なシーンで登場する御前崎灯台

昭和32年(1957)に松竹映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケーションが、佐田啓二、高峰秀子、田村高広、中村賀津雄らを迎えて行われました。静岡県浜松市出身の木下恵介氏が監督としてメガホンを取りました。

御前崎(御前崎町当時)でのロケは、映画中盤で戦時中の空襲を受ける場面と、クライマックスシーンで慈しみ育て上げた娘が、結婚して婿と共に外国へ旅立つ船を灯塔の手摺りから見送るという喜びも悲しみも幾つもの苦労をしてきた夫婦の心温まる場面と、物語の最も重要なシーンの収録となりました。



映画看板家 郁久美邦夫氏(藤枝市) 寄贈(2012年)

### 「喜びも悲しみも幾歳月」の概要

ある灯台守の妻の手記からヒントを得て、木下監督が作り上げた夫婦の一代記。上海事変の1932年、新婚早々の一組の夫婦が御前崎灯台に着任した。二人の生活は、戦争に翻弄される日本と同じ苦労をたどる。戦後も、一人息子の死や娘の結婚という悲喜こもごもの連続であった。

25年にわたる夫婦の姿を通して、木下は『二十四の瞳』と同じように、日本の同時代史を見事に描いてみせる。木下は、日本人好みの感傷を織り交ぜながら、波瀾万丈の一代記をうまくまとめあげ、北は北海道の納沙布岬から南は五島列島の先の女島まで、全国15か所に縦断ロケを敢行し、その後のロケ地とのタイアップによる製作方法のさきがけとなった。作品は記録的な大ヒットとなり、「おいら岬の〜 灯台守は〜」で始まる映画の主題歌も、行進曲風なアレンジによる若山影の歌唱により、多くの人々に親しまれた。「キネマ旬報」ベストテン第3位。

●スタッフ●  
原作・脚本・監督 木下恵介  
撮影 橋田浩之  
照明 豊島良三  
録音 大野久男  
音楽 木下忠司  
美術 伊藤薫  
" 梅田千代夫

●出演者●  
有沢きよ子・高峰秀子  
有沢四郎・佐田啓二  
光太郎・中村賀津雄  
雪野・有沢正子  
藤井たつ子・桂木洋子  
野津・田村高広

名取・・・北龍二  
名取夫人・・・夏川静江  
進吾・・・仲谷昇  
金牧・・・三井弘次  
金牧の妻・・・桜むつ子

松竹映画人気スター出演によるロケとあって、噂が噂を呼び連日押すな押すなの人混みで、中にはこのロケを見ないと話の種にならないと弁当持参組もたくさん見られたそうです。



御前崎ロケで勢揃いした出演俳優の方々



### 地元の人たちの空襲シーン出演

地元の婦人消防団員も竹槍訓練のエキストラとして参加し、自衛隊機も加わって灯台への爆撃、機銃掃射の場面が撮影されました。



竹槍訓練の様子(上)とエキストラの皆さん(下)

### 映画から50周年を記念したイベント



平成19年(2007)5月、御前崎ロケ50周年にあたり御前崎灯台を守る会が主催で木下恵介監督の実弟木下忠司氏の講演会が行われ、主題歌の歌碑も建立されました。



御前崎灯台を守る会 監修 2021年 作成